



74
1435
3

坪井信良譯

初白樓
藏梓記

侃斯達篤內科書

卷三
卷四

初白樓梓

老皂館
山茶房
英蘭堂
英蘭堂託

侃斯達篤卷之三

侍醫法眼 坪井信良譯

焮衝 其二

焮衝經過及終歸

各種ノ焮衝經過一定ナラス、急速ナルアリ、緩徐ナルアリ、其然ル所以ノ理ハ、余輩未タ之ヲ詳ニセス、但シ少壯強實ノ人、殊ニ生命須要ノ部、肺、心、沕乙膜ニ發スル者ハ、多クハ急性ニ、實性熱ヲ兼發ス、又虛弱ノ人、及ヒ敗血原因タル者ハ、多ク



91-2048

ハ緩慢ナリ、且ツ此際ニ於テハ、滲出液夥シキモ、
 隱伏スルカ故ニ、知ル可ラス、唯理學ヲ以テ之ヲ
 察スルノミ、然レモ極テ衰弱セル人ニ於テ、顯著
 ナル急性焮衝ヲ發シ、ト病又壯實ナル人ニ於
 テ、慢性焮衝ヲ發スルコトアリ、是レビコツト氏焮
 衝ヲ説クニ、急性、慢性ノ區別ヲ取ラサル所以ナ
 リ、抑モ焮衝ノ劇易ハ、患部ノ機能ニ由ル所ナリ、
 皮膚蜂巢體ノ焮衝ハ、二三日ナルヲ急性ト稱シ、
 瞽留スルヲ四十日、五十日ナルヲ慢性ト稱ス、然
 ルニ軟骨焮衝ニ於テハ、此ノ日數ナルモ、尚之ヲ

急性ト稱シ、數月ヲ經ルニ及テ、始テ之ヲ慢性ト
 云フ、

終歸ノ最モ幸ナル者ハ分解ナリ、是レ多血滯留
 スルノ時期ニ方テ、原因全ク排除スル者ニ於テ
 ハ自然ニ容易ニ分解スルコトアリ、眼ニ入ルノ砂
 塵ヲ拭ヒ去レハ、之ニ由テ生スル所ノ白膜焮衝、
 必ス速カニ消散シ、又動脈末梢ヲ閉大シ、鬱積ス
 ルノ血液ヲ、速カニ流通セシムレハ、血行快利シ、
 隨テ焮衝分解スルコトヲ得ルナリ、然レモ自然ニ
 テモ、人工ニテモ、交感運動ニ由テ、焮衝ノ原因ヲ

排除スレバ、嘔吐ニテ、毒物、汚物ヲ胃中ヨリ排除
 ス、鬱積スルノ血液消散セズ、滲出期ニ移ル
 アリ、是レ原因酷烈ニテ、後害ヲ貽スニ由ルアリ、
 或ハ機能不給ニシテ、速カニ之ヲ復治スルヲ能ハ
 サルニ由ルアリ、今記スル所ノ速カニ復治スル
 ト云フノ語、著目スヘシ、何トナレハ、滲出既ニ久
 シクモ、其液凝固スル者モ、終ニ漸ク溶解シテ、吸
 收セラレ、血中ニ入り、或ハ彼是ノ道路ヨリ、體外
 ニ排泄シ去テ、分解スルヲアレハナリ、或ハ充盈
 セル脈管破裂シ、次テ出血シテ血液消散シ、後害

ヲ貽サ、ル者アリ、焮衝ノ部ハ、分解スルノ後モ、
 少時間ハ、尚稍膨腫スルナリ、是レ其組織ハ、急ニ
 平態ニ復スル者ニ非サレハナリ、此時ハ再發シ
 易キノ僻アルカ故ニ輕微ノ原因アレハ、則チ多
 血症ヲ發スルナリ、
 今記スルカ如ク、纖維質滲出シテ、凝固スル者モ、
 溶解シテ終ニ吸收シ去ラル、是レ以テ滲出ノ大
 要ヲ知ルニ足ルナリ、
 滲出液、及其形狀變化、
 焮衝ノ部、其管外ニ滲出スル物、初期ハ稀液ニシ

其分量ヲ變スルノミナレト、漸次ニ其性質ヲ變
 シテ、血洩乙ニ同シク、或ハ之ト同量ノ塩分アレ
 氏、卵白質少シ、然レ氏後遂ニ血體ト同シク、纖維
 質ヲ含ム、但シ焮衝輕易ナレハ、滲出液中、固成分
 亦少ナシ、又細脈管破裂スルヲアレハ、滲出液中
 有色、或ハ無色ノ血體ヲ混スルヲアリ、之ニ由テ
 無色、黃色、或ハ赤色ノ別アリ、血液ヲ混スルヲ多
 キ者ヲ、血液溢出ト稱ス、軟脆ニノ破裂シ易キ部
 腦、肺、ノ劇焮衝、又敗血焮衝、失苟兒陪苦、等ニ於テ
 見ル所ナリ、

滲出液ノ量ハ、焮衝輕重ノ度ニ由リ、患部硬軟
 ノ異ニ應シテ、自ラ別アリ、粘液膜、洩乙膜ニハ
 滲出多シ、組織實質内ニハ、滲出液凝固シ、粘液
 膜、洩乙膜ニハ流利ス、但シ疎鬆質ノ部ナルモ、
 輸送管アルヲ腎ノ如キハ、滲出液多クハ流通
 シ去ルカ故ニ、瀦留スルヲナシ、

一 滲出液中纖維質ヲ含ムヲ、愈少ナケレハ、愈流
 利シ易シ、外部輕易焮衝發泡、後ノ滲出ノ如シ、然
 レ氏周圍ノ部ニ由テ、大ニ異ナルナリ、假令滲出
 液中、纖維質ヲ含ムヲ多キモ、洩乙膜囊内ノ焮衝

性水腫ノ如キハ、久時ノ間流利シテ凝固スルナシ、又外氣觸レサレハ、能ク凝固スルナシ、是レ總テ粘液膜滲出液ハ、沕乙膜滲出ヨリハ、速カニ凝固スル所以ナリ、滲出液久シク流利スレハ、吸收シ去ルノ亦容易ナリ、而シテ常ニ後害ヲ貼サス、腦ノ如キ極テ軟脆ナルノ部ニテモ流利性滲出液ニテハ、決シテ破裂スルナシ、

二滲出液中纖維質ヲ含ムノ多ク、或ハ外氣ニ觸接スレハ、其一半或ハ全量凝固ス、是レ肺焮衝ニ於テ驗スル所ナリ、又ブリクト病ニテハ、腎ノ小

管中ニ於テ之ヲ見ル、焮衝セル粘液膜ノ表面、格魯烏弗膜沕乙膜ノ側面、胸膜焮衝ニ於テモ然リ、又滲出セル沕乙液中ニ、柔軟ナル凝固物アルヲ見ル、胸膜、又腹膜焮衝、但シ外部ニ交通スルノ道アルヲ、腎或ハ他ノ粘液膜ノ如キニ於テハ、凝固物速カニ排除シ得ルナリ、然レモ滲出スル粘液膜ノ表面ハ、刺戟ヲ受テ、更ニ分泌ヲ增多スルナリ、下利此ノエトク外部ニ交通スルノ路ナキ者モ、或ハ凝固スルノ纖維質、不可測ノ妙機ニ由テ、復ヒ軟化溶解シ、吸收セラレテアリ、肺焮衝ノ

分解或ハ成形ノ力組織ニ及ハハ、疎鬆部ニ硬結
 ヲ生シ、又新生組織中、加爾基塩、膽汁質集積シ、一
 半ハ硬化ス、但シ此類ハ、湯乙膜ニハ多ク、粘液膜
 ニハ少ナシ、而シテ相近接スルノ両面、蜂巢狀
 ノ附著愈合ヲ為スナリ、ヒルシヨウ氏曰ク此ノ
 如キ附著中、新神經ヲ見ルヲアリ、グリユゲ氏亦
 此説ヲ主張ス、

此ノ如キ成形機能ヲ論スルニ二般ノ説アリ、
 或ハ曰ク、滲出セル纖維質ハ、結石成形ノ如ク、
 漸次ニ發成シテ、器械製造ノ法則ニ隨ヒ、更ニ

近接ノ部ヨリ、新組織中ニ蔓延スルノ新脈管
 ノ補助ヲ受ケ、或ハ新組織中ニ發成スルノ新
 脈管ノ力ニ由テ、直チニ組織實質トナルナリ、
 又近今殊ニレイシハルドト氏唱フル所ノ説
 ハ、分泌セル纖維質ハ、絶テ發成ノ機能ヲ具セ
 ス、故ニ凡ソ新ニ成形スルノ物質ハ、皆滲出液
 ヲ被包スル部ノ機能ニ出テ之ヨリ組織ノ發
 成ニ來ルヲ、猶脈管ノ延張スルカ如シ、其脈管
 漸ク進テ、纖維質中ニ入り、而シテ稀液ハ漸クニ
 吸收シ去ラレ、但シ多量ノ滲出液ハ、吸收シ去

リ難キカ故ニ、硬化シテ、新組織ノ發成ヲ障害スルナリ、

三 膿化亦二般相反スルノ説アリ、或ハ曰ク、既ニ凝固セルノ纖維質ハ滲出液ヨリ分拆シテ膿トナルナリト、或ハ曰ク、否ラス、唯流動性ノ滲出液ノミ膿ニ化スルナリト、今此二説ノ是非ヲ論駁セスノ、唯其要件ヲ記スヘシ、夫レ膿ハ、帶黃白色ノ液ナリ、其質餘ノ如ク、微甘味微臭アリ、舍密性ハ中和性ナリ、之ヲ密封シ貯フレハ、久シク分拆スルヲナシ、其異重ハ一ナラス、一、零三零ヨリ一、

零三四ニ至ル、之ヲ顯微鏡ニ照スニ、流動液ノ外、更ニ無數ノ膿球アリ、無色ノ胞ニノ核アリ、破裂シ易シ、中徑二百分線一、至三百分線一ノ大ナリ、醋酸、或ハ蠶乙典埤利篤亞斯ヲ注ケハ、胞中含ム所ノ球狀ノ部、溶解シテ明ラカニ其核ヲ見ルヘシ、又更ニ大胞アリテ、多量ノ小暗體ヲ盈ツ、或ハ全ク閉塞スルアリテ、普ク核ヲ被色シ、全胞不透明ナルアリ、ホーゲル氏、レインハルドト氏、之ヲ球胞ト稱ス、更ニ前記ノ者ヨリハ、稍大ナル百分線ノ一、八十分線ノ一、體アリ、之ヲ被色スルノ胞

ナシ、唯球ノ集合ニ成ル者ナリ、グリユゲ氏之ヲ
焮衝球ト稱ス、又彼此ノ部ニ一核ヲ具ヘテ、多血
扁平ナル胞アリ、濃稠ナル同質ノ液、或ハ球ヲ充
テ蜂巢膜ト附接ス、其舎密性ハ、角質ト同シ、之ニ
強烈醋酸或ハ鼈乙典埜剝篤亞斯ヲ注ケハ、灰白
色トナリ、膨張ス、又血體及ヒ潰爛セル組織、纖維、
凝固物等アリ、

膿球ノ名稱ハ、穩當ナラス、凡ソ滲出液中ニ成
形シ、漸ク新形ヲ發成スヘキノ新細胞體ナル
ノミ、ヘンレ氏曰ク、細胞體ヲ具スルノ滲出液、

或ハ膿トナリ、或ハ神經、列印巴、纖維質、粘液、或
ハ膿狀粘液トナル、其此ノ如ク變スルハ、膿ノ
本性、及ヒ舎密性相異ナルト、又其細胞體、膿球、
ノ量ノ多少トニ由ル、沕乙膜焮衝後ノ水樣液、
皮膚焮衝後ノ泡内ノ列印巴、聖京屈ノ未熟粘
液中ニハ、膿球少ナシ、滲出日ヲ經ル者ハ、多少
必ス之アリ、良性膿中ニハ、細胞體大ニシ且ツ
多シ、是レ帶黃白色不透明ナル所以ナリ、
近時諸家精密ニ檢査シテ、滲出細胞體ノ漸次ニ
成形スルヲ、及ヒ其增育發成スルヲ知ル、其初

流動滲出液中、核胞ヲ生ス、其核二三離拆シテ、細胞體トナリ、一核或ハ數核ヲ圍包ス、此ノ如ク集合スルハ、常ニ細胞體發成ノ後ニ在リ、レインハ、ルドト氏胞内含ム所、其初透明水ノ如クナレ、漸ク變シテ胞ノ球狀ヲ固定ス、膿中及ヒ液中ニ存スル成形物ハ、皆細胞體ノ發育スルヨリ生スル所ナリ、上ニ記スル球狀細胞體ハ、胞内ノ脂肪球集合ニ成ル者ナリ、又細胞膜層積シテ、グリエゲ氏所謂ノ燧衝球ヲ生ス、但シ近今ノ説ニテハ、無數ノ小球附着シ、之ヲ被フニ總膜ヲ以テスル

者ナリ、膿胞ハ表皮細胞體ト同シク角質ナリ、遂ニ上ニ説ク所ノ扁平多血體ヲ為ス、故ニ膿ハ真性、或ハ假性ノ細胞體ナリ、其一部殊ニ健康部ニ接スル者ハ、變シテ纖維トナリ、組織トナリ、遂ニ斑痕トナル、但シ其殘餘ノ部ハ、分泌液ト同シク、他部ニ流レ去リ、又外氣ニ觸接シテ消散ス、其膿ノ所在ニテ、此ノ如キヲ得サル者ハ、吸收シ去テ、斑痕ヲ全成ス、而シテ所謂脂肪球ハ溶解シテ流動性ヲ得ルナリ、創痕ノ直チニ治愈スルハ、創面ニ滲出セル少

許ノ液、即チ細胞體ニ由ル者ナリ、此物外部ニ
 出テハ表皮トナリ、深所ニ於テハ組織トナル、
 猶細胞體ノ始テ發成スルキノ如シ、細胞體圍
 包シテ管ヲナシ、延張シテ線條ヲナス、而シテ他
 ノ細胞體ニテ成ル所ノ線條ト相連接ス、此時
 成ルノ線條ハ、未全ニ細胞核ヲ連續スル者
 ノミ、漸ク核ヲ吸收シ去リ真ノ細胞體トナル、
 骨貌、偻屈ノ治愈スルハ、滲出液中生スル所ノ
 細胞體、軟骨狀ナレバ、漸ク骨質ニ變スルニ由
 ル、截斷セル神經ヲ愈合スルノ滲出液ハ、細胞

體、神經纖維ヨリ生スルナリ、諸般ノ發疹病、羅
 斯、麻疹、猩紅熱等ハ滲出液ニ由テ舊來ノ表皮
 ハ剝脱シ、新表皮ヲ生ス、是レ焮衝セル表面ヲ
 被包スル者ナリ、補給スルニ全アリ不全アリ、
 患部ノ發成局ヲ終ルノ後、全然舊形ニ復セサ
 レハ斑痕トナル

膿液變化

粘液膜、輕易ノ焮衝、例之感冒、氣管聖京、屈ニハ、一
 種ノ液ヲ分泌ス、是レ真膿ニハ非サレバ、大ニ相
 類似スル者ナリ、之ヲ膿狀粘液ト稱ス、古來此粘

液ト真膿トヲ區別スルニ、大ニ勞神スレモ、未タ得ル所ナシ、夫レ猩紅疹粘液ト、粘液膜分泌スル所ノ膿ト、異ナル所ナク、之ヲ顯微鏡ニ照スモ、舍密法ヲ以テ検査スルモ、真ノ區別ヲ得ルコトナシ、キユラルホク氏膿液中ニ於テペイ子ト稱スル一物質ヲ創見スト雖、是レ亦スケレル氏ノ説ニ據レハ、健康部、又疾患部ニ於テモ見ル所ナレハ、未タ以テ膿ノ真微トナスニ足ラス、スカルラウ氏、曰ク、膿液千々中、水九百三十四、五八零、膿球、鐵分、脂肪、纖維質、卵白質六十二、五零、塩酸鹽

屬加里質、曹達質、三氏三七零ヲ含ム、但シ膿ハ自ラ固有ノ性質、舍密成分有テ、他液ト相異ナリ、故ニ或ハ沕乙狀、水狀、斑點狀、或ハ凝固性アリテ、濃厚粘滑ニノ渾濁酒滓ノ如キアリ、其色白、黄、綠、或ハ赤、臭氣亦一ナラス、是レ偶然混和スル所ノ異物、粘液、血液、脂肪、又固性體ノ溶化スル物、及ヒ膿液成分變性スル等、一樣ナラサルニ由ル、蓋シ以テ諸家驗スル所ノ顯微鏡形狀、舍密性成分、數般ノ別アルヲ知ルヘシ、

又變性膿液、敗膿ト稱スル者アリ、其質稀薄、或ハ

粘稠渾濁、其色黃、綠、汚赤、褐、或暗黑、一ナラス、硃砂、
 硫水素氣ニ似タル酸臭アリ、之ヲ顯微鏡ニ照ス
 ニ、其形數様ナル球、皺襞アリテ腐敗セル膿球、不
 整ノ球狀細胞體、游離セル脂肪、凝固物、血體、畸形
 ノ結晶體、小蟲等ヲ見ル、夫レ敗膿ノ確徵ハ、其浸
 淫スルノ部、及ヒ之ヲ被包スルノ蜂窠體ヲ潰爛
 スル者是ナリ、古人良膿ニモ此性アリトスルハ
 誤ナリ

又一種固有ノ毒ヲ含蓄スルノ膿アリ、痘瘡、微毒、
 牛痘ノ如シ、之ヲ他人ニ賦與スレハ、必ス其毒ヲ
 傳搬シテ固有ノ症ヲ發ス、而シテ其本態、含密性成
 分、顯微鏡形狀等、良膿ト異ナル所ナシ、故ニ其差
 異ハ、固有ノ性ヲ傳搬スルヲ以テ知ルヘキノミ、
 其理ハ未タ之ヲ詳ニセズ、
 釀膿スル部ノ局所、組織差異アルニ從テ、膿性一
 ナラサルハ、瘍醫ノ知ル所ナリ、創傷部、焮衝ハ、白
 色濃厚ノ膿ニ非スメ、直チニ帶赤ノ凝液ヲ分泌
 ス、又外來諸因、縛帶ノ可否、零氣ノ性等ニ由テ、膿
 性大ニ變異ス、情意感動、神經諸病、胃腸汚物ハ、膿
 ノ性、及ヒ量ヲ變スル者ナリ、

膿液形狀

膿液形狀ノ差異アル所以ハ、之ヲ釀ス部局各自ノ性アルニ由ル、

一皮表膿化、表皮ニ厚薄、硬軟ノ別アリ、

甲軟表皮、沕乙膜、粘液膜ニ在ル者ノ如キハ、破裂

シ易ク、沕出液アレハ、則テ延張ス、膿液或ハ膿狀

沕乙、膿狀粘液、表面ニ漏泄スルモ亦容易ナリ、故

ニ初期ニハ、層内、又各個細胞内ニ、表皮ノ細屑ヲ

見ル、後膿體漸次ニ增多シ、病機全ク止ムニ至ル、

乙硬表皮、外皮、眼膜、口内、食道、鼻内、腔ノ如キハ、集

積スルノ膿液、或ハ沕乙ニ由テ、表皮一部膨脹シ

テ泡ノ如ク、或ハ囊ノ如シ、沕出液流動シテ水ノ

如クナレハ、終ニ破裂ス、濃厚トナリ乾涸スレハ、

痂ヲ結フ、痂内ニハ膿球ノ核集積シ、痂底又曝露

セル表面ニハ細胞體排列シ、泡破裂スレハ新表

皮トナル、

二巴連舍麻膿化、巴連舍麻質ノ器械ニ於テハ、膿

液凝固シ、各個ノ組織内殊ニ疎鬆質内ニ鬱積シ、

其部ハ沕出液ト膿液トニ由テ、滋養ノ機能ヲ失

シ、遂ニ死敗スルヲアリ、是ニ於テ膿液輻湊シテ

腫瘍トナリ、其空隙初メ小ナルトモ、鬱積スルノ
 膿液ニ由テ擴排セラレ、漸ク潤大トナレ、又側面
 ハ、圍包スルノ組織ト、膿液ノ沉底セル凝固質ト
 ニ成ル所ナリ、纖維質數層ヲ為シテ、此空隙ヲ被
 フアリ、腫瘍ノ帽夫レ巴連舎麻腫瘍ニ於テハ、膿
 液好テ下部ニ鬱積シ、瘻管ヲ生シ、口ヲ皮上ニ開
 キ以テ膿液ヲ漏泄スルナリ、而シテ其部實質ヲ潰
 滅スルヲ著大ナル者ハ、愈著スルヲ遲徐ニシテ、結
 核ヲ生スルニ由テ成ル、癰疽ニ見ル所ナ
 結核ハ、膿化セル創面治愈スルキニ見ル所ナ

リ、其表面ハ大ナル表皮細胞體ニ成ル、膿體ト
 ハ形狀異ナリ、總皮下ニモ同種ノ細胞體アリ
 テ、漸次ニ組織ニ變ス、此時已ニ形ヲ為スノ纖
 維、半ハ固定セル物質、新成ノ細脈管アルヲ見
 ル、創所ノ面ハ、全愈スルニ至ル迄ハ、機性アル
 液ヲ分泌ス、是レ速カニ細胞體膿體トナル者
 ニテ、洩乙液ト同シク、常ニ創面ニ流ル、此ノ如
 クニシテ、新肉全成スルニ至ル、創面ニ出ルノ膿
 ハ、乾固スレハ痂トナル、其痂底ニハ新肉ヲ生
 シ、痂剝脱スレハ斑痕トナル、新肉體面上ニ突

起スレハ、之ヲ贅肉ト名ク、

三 上ニ記スル所ノ新肉成形ノ機能ハ、一種ノ妙機ニシテ、何レノ組織ニテモ、其凝收力ニ破裂スルヲアレハ、必ス營為スル所ニテ常ニ焮衝ノ前發ヲ要スル者ニ非ス、内部ノ腫瘍ニ於テモ、亦此ノ如キヲアリ、是レ他ナシ、組織ノ凝收多少破裂スル者ナレハナリ、多血減少シ、腫瘍近接部ノ血行復スレハ、焮衝ヲ生スルヲナキカ故ニ、物質更ニ復タ来ラス、健康組織ノ界域ハ、補繕ノ機ヲ發シ少量ノ實質ヲ滲出シテ、隨テ新組織ノ原質脈

管等ヲ生シ、層重シテ虚隙ヲ充實シ、其流動分膿ハ、或ハ外部ニ漏泄シ、或ハ内部ニ吸收シ去リ、側面相愈着シ、終ニ斑痕ヲ生スルニ至ルナリ、斑痕ハ、何レノ軟部ニテモ、實質ヲ込スルヲアレハ、必ス之ヲ生ス、其初柔軟ニシテ脈管多シ、後脈管漸ク收縮閉塞スルニ由テ、密接乾固萎縮シ、隨テ斑痕ノ近部ハ、皺襞及ヒ線狀ノ紋理ヲ生ス、故ニ膿化ハ、有機細胞體ノ製造ナリ、此時成形スヘキ物質、或ハ焮衝ヲ兼子、或ハ焮衝ヲ兼子スノ、膿創ニハ屢之アリ、分泌ス、已ニ上ニ記スルカ如

ク、レインハルドト氏等ハ、膿化スルノ力ハ唯流
 動體ノミニ在リトス、然レモ他氏ハ之ニ反ノ曰
 ク、已ニ凝固スル纖維質モ亦此性ヲ具スト、之ヲ
 證スルニ、肺焮衝滲出ノ膿液ヲ以テス、又純性ノ
 血液凝固シテ、管外ニ在ル者ニモ、膿アルヲ以テ
 ス、此議論未タ一定ヲ得ス、尚脈管諸病篇、凝血膿
 狀ニ變スル者、又血液膿狀變性スルヲ論スルニ
 方テ詳説スヘシ、
 内部ニ於テ釀膿スルヲ知ルノ徵ハ、其膿液外部
 ニ漏泄スレハ論ナク、或ハ之ナキモ、一戰慄シテ

屢震掉シ、次テ發熱灼クカ如ク、熱ノ發作間歇定
 期アリ、晝後宵間、恰モ間歇熱ノ如シ、後溶崩熱ヲ
 發シ、兩頬紅ヲ潮シ、手掌、足心、灼熱、盜汗、下利、瘦削、
 而ノ食機大ニ妨クル所ナシ、
 二 全身諸機漸次ニ
 障害スルヲ甚タシ、
 三 患部近傍ノ内部鼓動ト重
 墜ヲ覺エ、且ツ兼テ其外部膨腫ス、
 四 膿潰ハ、腫瘍条ニ説クカ如ク、膿液鬱積シテ、其
 滋養ヲ妨クルニ由テ、組織一部死敗スルニ起ル、
 但シ消滅スル所ノ實體ハ、前ニ記スルカ如ク、膿
 化ニ由テ治愈シ、斑痕トナルナリ、是レ外部焮衝

粘液膜ニ於テ見ルカ如シ、表皮剝脱スレハ、速カ
ニ復故シ、或ハ滲出液深ク竅透シ、之ヲ圍包シ、或
ハ滋養スルノ血液循環ヲ妨クレハ、其部死敗ス、
或ハ膿化浸淫シテ、組織ヲ隔離スルキニ於テ然
リ、是ニ於テ、實質多少亾失シ、必ス膿化シテ復治
スヘキ者ナリ、但シ彼此ノ原アリテ、之ヲ妨クレ
ハ實質ヲ失スルノ多ク、漸ク増大スル者、之ヲ腫
瘍ト云フ、膿潰スル微ノ最ナル者、左ノ如シ、

甲器械衰弱、即機能衰弱、其部膿液中ニ在ル同化
スヘキ物質ヲ引攝シテ、新組織ヲ成スノ機能ヲ

失ス、此時兼テ汚膿ヲ分泌ス、此ノ如ク衰弱スル
ノ原ハ、其人虚脱、老年、病後、攝生不佳、濕氣等ニ由
テ虚憊ニ陥リ、或ハ其部、血液循環ノ中點心ヲ距
ルノ遠ク、生力固ヨリ乏ナル者、足部ノ如キ是
ナリ、

乙膿化ノ部、神經機不整、知覺感動銳敏ナル者、是
レ感覺銳敏ノ人ニ於テ發スル所ニテ、其過敏ノ
神經機能ヲ鎮定スルニ非サレハ、治愈セサル者
ナリ、

丙敗膿、是レ分泌膿中固性成分少ナキナリ、其原

敗血、失苟兒陪苦、腺毒、徽毒等、又異常ノ排泄物ヲ混スルニ由ル、敗血腫

丁膿化ノ部刺戟、外來諸因、異物、不佳ノ繃帶、小便、大便等ノ侵淫刺戟、

腫瘍表部ニ在ルヲリ、深所ニ在ルアリ、或ハ縱横ニ蔓延スルアリ、敗膿ハ常ニ其部ヲ潰爛スルノ性アリ、但シ部位ノ差異ニ由テ之ヲ堪フルニ強弱アリ、諸骨、腱様部ハ能ク之ヲ免カル、敗膿ト各自ノ部トノ親和力アルハ、則チ各自毒腫瘍ヲ生スル所以ノ一原ナリ、又組織固有

ノ性アルカ故ニ、腫瘍ニ各種ノ形狀ヲ顯ハスナリ、是ニ由テ之ヲ觀レハ、各般ノ腫瘍、必ス焮衝ノ續症ナリトスルノ説、非ナルヲ知ルヘシ、多クハ先ツ膿化シテ、後腫起ス、若シ夫レ膿化スルニ焮衝ヲ必須ナリトセハ、膿化ト腫起トハ必ス區域アルヘキナリ、抑膿化ト腫起トハ相異ナルノ形狀ナルノミ、

五壞疽ハ、焮衝ノ部、全然死敗スルナリ、是レ滲出セル膿液鬱積シ、以テ其部ノ營養ヲ失スルニ由ル者タルハ、已ニ記スル所ナリ、故ニ骨中、又骨ト

骨膜トノ空隙ニ膿アレハ、腐骨ヲ生シ、膿液蔓延
 スレハ、組織ノ膜質疎解シ、壞膜ヲ生ス、又細管中
 血液全ク瀦留スルニ由テ壞疽ヲ發スルコトアリ、
 外因破裂、挫傷、凍返、炎熱ニ由テ、麻痺衰弱ノ部ニ
 於テス、此類之ヲ熱性、焮衝性壞疽、熱壞疽ト稱ス、
 血液瀦留スルヨリ發スル壞疽ハ、先ツ其血液
 細脈管中ニ在ル者モ、又管外ニ漏泄スル者モ、
 溶解シテ紫色トナリ、血體赤分、分解シテ汚乙
 ニ混和シ、之ニ其色ヲ賦與ス、滲漏スルノ血ハ、
 褐黒煤ノ如クニ凝結ス、血質此ノ如ク變ス

ルハ、初期ノ徵ニシテ、焮衝性壞疽ニハ、必見ノ證
 ナリ、後次テ他ノ組織ヲ潰爛ス、關節筋ノ第一
 組織、其横線ヲ失シ、灰色トナリ、恰モ蜂巢體ノ
 如ク、他ノ組織モ其凝收ヲ失シテ、球狀質トナ
 ル、諸骨、腱、肺ノ纖維狀組織ハ、最モ久シク其形
 ヲ損セス、ホーゲル氏焮衝性壞疽ヲ詳記スル
 極テ難シ、然レモ凡ソ軟脆ノ部ニハ、軟脆絮
 ノ如ク、粘稠糜ノ如ク、暗黒敗臭物アリテ、内ニ
 敗血及ヒ分拆セル組織ノ剝屑、又敗物ヨリ生
 スルノ脂肪球、小蟲等ヲ混ス、

併期達篤卷三
 三

又一種焮衝ニ関カラスメ、血液運輸絶止スル
 ヨリ生スルノ壞疽アリ、例之、動脈閉塞、又膜質
 ト、滋養スル組織ト離拆スルニ由テ發スル者
 ノ如シ、是レ多クハ無熱乾燥壞疽、寒壞疽ニノ
 萎縮セル壞疽、即チ初メ粘稠、後絮ノ如クナル
 枯燥ナリ、之ヲ壞疽痂ト稱ス、又血液變敗シテ
 某ノ部ノ壞疽ヲ生スルニアリ、膿化、浸淫性癌、
 麦奴毒等、又組織ノ舍密性溶崩アリ、氣管中ニ
 鬱積スル分泌液、溶崩ニ由リ、又霧氣毒ニ中ル
 ヨリ發スル肺壞疽、此類ノ詳論ハ、原病總論ヲ

見ルヘシ、



各種ノ壞疽、其部焮衝、膿化シテ區域ヲ畫シ、生肉
 ヲ保持シ、更ニ膿化シテ損込スルノ部ヲ復治ス、
 然ルニ全身衰弱、又局部ノ景况ニテ、大ニ滋養ヲ
 障害シ、動脈閉塞區域ヲ畫スルヲ能ハサレハ、壞
 疽蔓延シ、若シ兼テ敗膿浸淫スレハ愈甚タシ、而
 メ局部ノ死敗ヨリ、敗膿ヲ吸收スルニ由テ、虚性
 熱ヲ發シ、消耗シテ全身ノ死ヲ致スニ至ル、
 焮衝ノ終歸、及ヒ滲出液ノ變性、其類數般ナリ、其
 然ル所以ノ原如何、未タ之ヲ詳カニセス、

淋衝ノ終歸、患所ノ性ニ由ル者多シ、腰筋纖維、及
 ヒ脂膜淋衝ハ、膿化シ易ク、腺淋衝ハ硬結シ易ク、
 沕乙膜淋衝ハ滲出シ易ク、又假膜ヲ生シ易ク、分
 泌粘液膜淋衝等ハ分泌ヲ增多シ、膿潰シ易シ、然
 レモ同一部ニ於テ、同一時ニ二般ノ滲出液ヲ併
 セ生スルコトアリ、又全身ノ景況、年齢、及淋衝ヲ發
 スル所以ノ原因、已ニ去ルヤ、尚未タ除カサル等
 ノ事件ハ、實ニ關係スルコト少ナシトセズ、又一種
 ノ敗血ニ由テ、滲出ノ發成ヲ限畫シ、或ハ全ク之
 ヲ障止スルコトアリ、近世ニテハ、血液ノ原發病ト、

續發病トヲ區別レ、以テ滲出液ノ品類、及形狀變
 化ヲ說ントス、是ニ於テ、其平時ノ者ト、病時ノ者
 トヲ區別シ、更ニ又各種ノ滲出ニ適スル者ヲ辨
 別ス、但シ未タ共ニ確徵ヲ得ルコトナシ、故ニ滲出
 液ノ別アル所以ノ原ハ、未タ不可解トスルヲ、彼
 ノ偏固ニ臆說ヲ唱ヘテ、之ヲ辨セントスルニハ
 勝レリトス、又近世大ニ稱スル所ノ顯微鏡検査
 ニテ、滲出液ヲ辨論スルコト、極テ精密之ヲ區別ス
 ルコト、極テ微妙ナルモ、畢竟無稽ノ空論ニテ、未タ
 治療家ノ裨益トナスヘキニ非ス、

解剖ニテ驗スル所歟衝終末、滲出液ノ區別ハ、自
 ラ全身平時ニ生スル所ノ者トハ差異アルナリ、
 兩ノ者必シモ同一致ナルニ非ス、歟衝後ノ局部
 壞疽ハ、全身ノ生カトハ、固ヨリ一般ナラス、又其
 病時ノ機能ト相異ナリ、然ル所以ノ理ハ、機性局
 部、疾患ノ抵抗ニ隨フ者ニテ、全身ノ景況ニハ大
 ニ隨ハサル者ナリ、此ノ如ク局部ノ景況ハ、熱性
 及ヒ神經症ニ大ニ關係スル所ナレハ、曾テ已ニ
 論スル所ナレド、尚熱病本條下ニ於テ之ヲ詳説
 スヘシ、

歟衝治法

今歟衝治法ヲ總説スルニ、醫者著目スヘキノ要
 件左ノ如シ、

- 一 歟衝ノ原因、
 - 二 全身抵抗ノ性、及ヒ諸力ノ強弱、
 - 三 患部ノ性質、
 - 四 局部症ノ時期、
- 其一、歟衝ノ原因、
 先ッ歟衝ノ原因ヲ探ルヘシ、但シ詳カニ知ル可
 ラサル者アリ、原因已ニ去テ、唯其後害ヲ貽ス者

ナルヤ、或ハ今尚存在スルヤ、之ヲ除キ得ヘキヤ、
 之ヲ防キ得ヘキヤ、人工ヲ以テ之ヲ除クノ前、已
 ニ良能治力宜キヲ得ルヤヲ探索シ、以テ焮衝ヲ
 發起スル原因ノ治法ヲ定ムヘシ、血液ノ性、又其
 量、發成ノ期、時令、地方病性、何レカ關係スルヤ、又
 器械性、舍密性、有機性、交感性、枯槁機性、敗血性、定
 類毒ノ刺戟ニ原スルヤヲ考究スヘシ、若シ其原
 因除去シ得ヘキ者ハ、先ツ之ヲ勉ムヘシ、異物ハ
 之ヲ排除シ、骨貌孱弱、脱臼ハ、之ヲ整復シ、舍密性
 毒物ハ、之ヲ封制シ、中性トナシ、稀薄トナシ、交感

ニ起ル者ハ、之ヲ復治スル等、故ニ原因治法ニハ、
 數般ノ法ト、藥品トアリ、醫宜シク症ニ應シテ之
 ヲ撰用スヘシ、
 定類毒ニ由テ發スル焮衝ハ、一種ノ異性アル
 カ故ニ、諸防焮治法ヲ施スヘキニ非ス、又原因
 劇甚ニシ、非常ノ大抵抗ヲ發スヘキ者ニハ、勉
 テ消焮法ヲ施スヘシ、之ニ反シテ其原因零氣
 毒、焮衝ヲ發スルニ方テハ、血液ヲ溶崩セシム
 ヘキ者ナレハ、妄ニ消焮法ヲ施スト勿レ、故ニ
 敗血ニ原スルノ焮衝ニハ、一向ニ減損法、消焮

法ヲ禁スヘシ、是レ疾病ヲ防カスノ、却テ險惡ニ陷ラシムレハナリ、

原因ヲ知り得レハ、病毒ノ分利ハ、之ヲ良能ニ委任シ、妄リニ之ヲ催進スルヲ勿ルヘク、最モ之ヲ障害スルヲ勿ルヘシ、以テ全局ヲ終ル者多キヲ悟ルヘシ、但シ、焮衝ノ度、患部ノ異、病ノ時期ニ由ルナリ、抑モ疾病經過シテ、健康ニ復スルニハ、必須ノ定時期ヲ要スル者タルヲ知ルヘシ但シ原因治法ノ趣旨ト、焮衝自家ノ運營ト相合セサル者ハ、勉テ速カニ醫手ヲ下スヘシ、

知ル可ラサルノ原因、或ハ之ヲ知ルモ決シテ除キ能ハサル者ニテ、神經刺衝、疼痛ヲ起シ、隨テ焮衝ヲ發スルヲアリ、此際第一因ヲ治スベカラス、宜ク第二因ヲ除クヘシ、則チ神經刺衝ヲ鎮定スルナリ、神經ヲ割テ、馬足ノ焮衝ヲ治スルヲアリ、故ニ鎮痙劑、殊ニ阿芙蓉ハ、古來焮衝治法ノ鎮定品トス、原因除キ得ヘカラサル者ナレトモ、腎石、膽石、神經力間歇、定時ヲ以テ、亢起シ、焮衝ヲ發スルアリ、此際唯鎮痙品ヲ與ヘ、神經知覺機ヲ遲鈍ニスルノ外、他ノ治法ヲ施

ス1ヲ得ス、

其二、全身抵抗ノ強弱、

局部焮衝アリテ、全身抵抗ヲ發セサル者、或ハ之ヲ發スルモ輕微ナル者ハ、宜ク自然ニ委スヘシ、然レモ抵抗急性大過、或ハ假性壓迫ノ者ハ、之ヲ適度ニ導クヘシ、則チ減損法、防焮法是ナリ、或ハ神經機能亢起スルアリ故ニ交感神經症ヲ治スルハ、即チ防焮法トナル1アリ、

抵抗大過ヲ治スルノ主品ハ、全身瀉血ナリ、其量抵抗ヲ適節ニスルニ足ルヲ要ス、而シテ此量ハ預

メ之ヲ定ムル1能ハス、醫宜ク時ニ應レテ之ヲ計ルヘシ、多血ノ人ニハ、乏血ノ人ヨリ、多ク、強實、少壯ノ人ニハ、虛弱ノ老人、或ハ小兒ヨリ多ク、強壯ノ男子ニハ、脆弱ノ婦人ヨリ多ク、脈大實ニシテ熱勢盛ナル者ニハ、之ニ反スル者ヨリハ多カルヘキハ、人普ク知ル所ナレハ、贅言ヲ俟タス、然レモ外貌虛性ノ如クニシテ、内情實性ナル者、例之、腹膜焮衝ノ如キニ於テハ、如何ノ處置ヲ為スヘキヤ、此ノ如ク疑似決シ難キノ際ニ於テハ、放出スル血質ヲ檢査シテ、外症ノミニテハ知ルヘカラ

サルノ實ヲ得ヘシ、世人血上ノ豚肉皮ヲ稱シテ
焮衝皮ト名ケ、之ヲ見ルハ、焮衝ノ微ナリトシ、必
ス多量ノ瀉血ヲ要スル者トス、衆醫今尚此説ヲ
信スル者アリテ、放血上皮ヲ結フノ間ハ、妄ニ全
身瀉血ヲ行フナリ、

余既ニ記フ、豚肉皮ハ、唯血質ノ稠厚ナルノ徴ニ
ノ、焮衝ノ正徴ニ非スト、之ヲ見サルモ、全身抵抗
ノ強弱ヲ知ルニ足ルヘキ者アリ、故ニ他ノ諸症
ト併セ考テ、以テ如何ヲ知ルヘシ、妄ニ信スヘキ
者ニ非ス、且ク傍發ノ諸症ヲ精密ニ考フヘシ、

瀉血スルニ針孔大ニシ、出血大線ヲ為ス者、又
之ヲ貯フルノ器狹キ者、温所ニ放靜スル者ハ、
豚肉皮ヲ生シ易ク、之ニ反スル者ハ、豚肉皮ヲ
結ヒ難シ、

又放出ノ遲速ヲ測ルヘシ、豚肉皮ヲ結フ者モ、纖
維質實ニ多キヤ否ヤヲ驗スヘシ、此ノ如ク精密
ニ思慮スル片ハ、則チ豚肉皮ハ、全身抵抗ノ強盛
ナル症ニテ、必ス多量ノ瀉血ヲ要スル者ニ非サ
ルヲ自ラ知ルヘシ、

若シ夫レ患者ノ體質、發見ノ諸症、流行ノ病性等

ヲ併セ考フルモ、尚未タ疑似ニシテ、抵抗ノ強弱、
 虚實ヲ決定シ難キ者ニ於テハ、或ハ好機會再ヒ
 得難キノ期ヲ失スルヲアルヲ以テ、消息瀉血ヲ
 行フヘシ、此際醫自ラ之ヲ行フテ、血ヲ瀉出スル
 ノ間、精密ニ其脈ヲ診シ、脈沉、或ハ不齊トナル者
 ハ、速カニ之ヲ閉止シテ、他法ヲ處シ、又脈却テ亢
 起シ、患者瀉血ノ間ニ、已ニ輕快ヲ告ル者ハ、斷然
 トシテ、更ニ多量ヲ放出スヘシ、
 大線ヲナシテ、急速ニ多量ノ血ヲ瀉スレハ、其功
 迅速切實ニシ、且ツ持久ス、之ニ反シテ、小針孔ヨ

リ流泄シ且ツ遲徐ナル者、又水蛭、吸角等ノ局部
 瀉血ハ、其功確實ナラス、大量ノ瀉血ハ、脈沉シ、患
 者卒倒スルニ至ルヘシ、是レ屢實驗スル所ナリ、
 英國諸醫、殊ニ有名ナルハルル氏ハ、瀉血シテ卒
 倒スルニ至ルヲ法トス、人或ハ曰ク、此法恐クハ
 固ヨリ凝結セントスル血ナレハ、今卒倒スルニ
 至レハ、心藏、及ヒ大脈管中ニ於テ凝結シ、遂ニ之
 カ為ニ死ヲ促スヲアルヘシト、余輩屢之ヲ試ル
 ニ、卒倒スルニ至ルモ、未タ曾テ此ノ如キ悲酸ノ
 症ニ陷ル者ヲ見ス、又博ク之ヲ社友ニ問フニ、皆

九行定方卷二 敬傳 二十七 切勿誤

其害ナキヲ保證ス、故ニ此ノ過慮ハ要ナシトス、殊ニ卒倒ニ至ルノ放血ハ、豚肉皮ヲ生セス、

然レモ余謂ク、卒倒ハ必須緊要ノ者ニ非ス、常ニ

危険ノ症ナリ、瀉血後卒倒シ、或ハ感覺鋭敏ナル

人ニ於テ、搐搦、癲癇症ヲ發シ、大ニ患者ヲモ、看待

者ヲモ、惱スヲアル者、余屢之ヲ驗セリ、是レ必ス

後害ヲ貽スヘキ者ナリ、故ニ醫者瀉血スルノ際、

脈沉シ、患者惡心ヲ告ル者ハ、是レ卒倒前徵ナル

ヲ察シ、速カニ瀉血ヲ止メ、復治スルニ至ルハ、

卒倒ヲ發スルハ、瀉血ノ迅速ニ由ルヨリハ、精神

感動ニ由ル者多シ、又其量已ニ適宜ナル者ハ、全

ク之ヲ閉止スヘシ、血量ヲ定ムルニ標準トスヘ

キハ、脈沉シ、局部機能大ニ減シ、卒倒ノ前徵アル

者是ナリ、

放出スヘキ血量ハ、預メ定ムルヲ能ハス、六等ヨ

リ二十等、更ニ多キニ至ル、患者ノ體質、年齢、攝生、

抵抗ノ強弱、焮衝ノ部位等ニ由ル、幼稚ノ小兒ハ、

水蛭ニテ足レリ、稍長シテ十二歳ニ至ル者ニハ、

二等、至六等ヲ瀉ス、酒家、及ヒ肥満家ハ大量ノ瀉

血ニ堪ヘス、殊ニ酒客ハ、之カ為ニ謔妄ヲ發スル

一アリ、但シ健康壯實ノ人ニハ、十二号、至十六号
 ノ量ヲ瀉スルヲ通則トス、此等ノ人ニ於テハ、一
 頓ニ大量ヲ放出スレハ、優ニ頻回少量ヲ漏スニ
 勝ル一多シ、頻回少量ナルモ、總計多量トナレハ、
 患者衰弱シ、抵抗ヲ發スヘキノ好時期ヲ闕過シ、
 挽回ス可ラサル者アリ、瀉血間、早ク已ニ脈強實
 ナル者緩暢シ、壓迫スル者復シテ軟トナリ、患者
 爽快ヲ告ケ、呼吸緩徐、熱勢及ヒ局部諸症減退ス
 ルハ、瀉血實ニ奏効スルノ確徴ナリ、
 全身抵抗極テ盛ナル者ハ、一回ノ瀉血ニテ全効

ヲ得ル一能ハス、宜ク少時ヲ隔テ、復ヒ之ヲ施
 スヘシ、其間時久シキニ失スレハ、遂ニ前回瀉血
 ノ効力ヲ空フス、
 靜脈刺法ハ、數様ノ理アリテ、動脈刺法ニ勝ル一
 遙ナリ、夫レ動脈刺法ハ、之ヲ行フニ難ク、血ノ射
 出スル一迅速ニ過キ、適量ヲ得ル一能ハス、又再
 施スル一難シ、而シテ纜カニ牢實ナル支柱アル部
 ノ動脈ニ行フヘキノミ、ホーゲル氏一新法ヲ創
 意ス、則チ動脈ヲ壓迫シテ、焮衝部ニ血液ノ流通
 スルヲ妨クルナリ、
 腦焮衝ニハ、頭部動脈ヲ壓迫

焮衝
 二十九
 焮衝

スルノ類

局部瀉血法、水蛭、吸角、又近今大ニ賞用スル所ノ
 放血機器ハ全身抵抗ナキ者、或ハ之ヲアルモ輕微
 ナルノ焮衝、又虚弱ノ人、小兒、熱虚性ニ傾ク者、焮
 衝慢性ナル者ニ、全身瀉血ノ後、或ハ始メヨリ直
 チニ之ヲ施スヲアリ、水蛭ヲ貼スルニハ、或ハ直
 チニ患部ニ於テシ、或ハ遠隔ノ部ニ於テス、遠隔
 部ニ於テスレハ、誘導ノ効アリテ患部ノ鬱血ヲ
 疎通スルナリ、但シ之ヲ行フニ、二箇ノ要件アリ、
 一、小兒ノ氣管焮衝、肺焮衝ニ、水蛭ヲ貼スレハ、吸

口ノ出血止ミ難キヲアリ、故ニ之ヲ真肋骨アル
 ノ部ニ貼スヘシ、是レ後ニ縛帶ヲ施スニ使ナレ
 ハナリ、假肋ノ部ハ、支柱スル者ナキカ故ニ、之ヲ
 施シ難シ、此時瀉血スルニ、胸部ニ於テスルモ、臂
 ニ於テスルモ、其効異ナルヲナシ、蓋シ肺ノ脈管
 ト胸部ノ脈管ト固ヨリ直チニ相接スル者ナケ
 レハナリ、然レモ胸膜焮衝、腹膜焮衝ニハ、必ス水
 蛭ヲ胸部、腹部ニ貼スヘシ、又頭蓋骨内焮衝ニハ、
 頭部ノ脈管、厚腦膜ノ會脈ト直チニ相接スル者
 アルノ部ヲ撰ヒ、水蛭ヲ貼スヘシ、
 二、門脈系、殊ニ

肝焮衝ニハ、必ス許多ノ水蛭ヲ肛門ニ貼シ、痔脈ヨリ直チニ門脈血ヲ疎通セシムヘシ、夫レ瀉血ノ効ヲ奏スルハ、帝ニ其量ヲ減スルニ由ルノミニ非ス、又兼テ其質ヲ變スルニ由ル、是レ還流ノ血中ニハ、必ス纖維質ト血體トヲ減耗スルナリ、則チ減損法ノ名アル所以ナリ、瀉血ハ抵抗ノ大過ヲ減殺スルノ最要法ナリト雖、必ス無二ノ者トスルコト勿レ、他ノ減損法亦少ナカラス、但レニ般ノ別アリ、其一減損法ニシテ血液ノ凝固性ヲ減シ、之ヲ稀釋

ニス、其二分泌ヲ催進シ、排泄ヲ增多シ、以テ生力ヲ減殺ス、甘汞ノ如キハ、此ニ効ヲ併セ有ス、又分泌ヲ催進スルノ諸品ハ、兼テ誘導ノ効アリ、消焮法ノ最ナル者ハ、水銀、硝石、亞爾加里、及ヒ吐酒石ナリ、水銀ハ軟膏トナシ擦劑トス、或ハ甘汞ヲ製シ、内用トス、水銀ヲ竄透セシメ、其消焮力ヲ全フスルニハ、擦劑ヲ佳トス、宜ク大量ヲ取り、部位

ヲ交換シテ擦入スヘシ、セルシレ氏即効品ト稱ス、ニルマン氏、ホシバセトウ氏大ニ之ヲ賞用ス、甘汞ハ極テ急性ノ症ニハ即効ナシ、多クハ腹痛ヲ發シテ、綠便ヲ下ス、甘汞下利故ニ腸ノ感覺亢起ヲ合併スル者、又下利アル者ニハ用フルコト勿レ、ホーゲル氏ハ、大量ノ甘汞ニ藥刺巴ヲ配シ、間歇シテ之ヲ用フ而シテ、褐赤ニテ凝血ヲ帶ヒ、惡臭アル血水分泌ニ由ル、硬便ニテ、無數ノ黃色、或ハ白色ノ斑點、凝固セル纖維質ヲ帶ル者ヲ快通ス、此ノ如キ排泄アレハ、血

液ノ激衝性、速カニ大ニ減ス、總テ吐涎ハ激衝已ニ減退スルノ徵ナリ、是レ激衝盛ナル時聞ニハ發モサル所ナリ、故ニ水銀ヲ用フルノ前ニ、他ノ有力消燼法ヲ施スヲ要ス、硝石亦消燼ノ効アリ、一日之量、大約半錢、至一錢ヲ、包攝ノ煎劑、或ハ飲劑ニ和用ス、炭酸刺蕚亞斯、及吐酒石亦然リ、殊ニ吐酒石ハ局部ニ効アリ、肺激衝、粘液膜、及ヒ纖維質組織激衝ニハ、最モ偉効ヲ奏ス、之ヲ試驗スルニ吐酒石ヲ用フレハ、脈大ニ其カト數トヲ減シ、氣息緩暢シ、

激衝 三十二 刀白書

全身大ニ弛縦ス、此効ハ腸ノ排泄、吐瀉ヲ起サ
 スメ、已ニ能ク顯然タリ、故ニ血行ヲ減殺スル
 ハ、固ヨリ排泄ニ由ルニ非ス、實艾答里斯亦消
 滅品中ニ算スヘシ、是レ心臟ノ縮張ヲ減シ、又
 其力ヲ減シ、溫度ヲ減スレハナリ、實艾答里斯
 葉、每服四分片ノ一、至半片、一日三四回、浸劑ハ
 葉一刃、至半葉、水四号ニ浸出ス、

分泌ヲ催進スレハ、液量ヲ減少ス、故ニ凡ソ之ニ
 屬スル諸劑ハ、少シク瀉血ノ効アリト云フヘシ、
 但シ水分ヲ減スルニテ、凝固性成分ヲ減スルニ

非ス、分泌ノ最モ增多シ易ク、且ツ大ニ衰弱ヲ起
 ス者ハ、腸ノ分泌ナリ、故ニ最モ消滅ノ力アリ、諸
 分泌ヲ增多スレハ、則チ排泄スヘキ物質ヲ保持
 シテ、新病因ヲ増益スルコトナキノミヲ以テ、已ニ
 効アリ、上ニ記スルノ一種品類、甘草、吐酒石、ハ、腸
ノ排泄ヲ增多シ、二般ノ効ヲ兼有ス、滿那、荅麻林
度、中和塩、酒石葉、孕礬酒石、酒石、瀉利塩、等同効ア
リ、

抵抗強盛ナル者ハ、刺戟ヲ減少シ、清涼ノ食餌ヲ
 與ヘテ、勉テ之ヲ減殺スヘシ、患者ヲシテ、精神ヲ

モ、身體ヲモ安靜ニシ、凡ソ努力スルノ諸件ヲ退
 ケ、適宜ノ温度ニテ保護シ、滋養少ナク、少シモ刺
 戟セサルノ食物、飲料、菓實ヲ與ヘ、單水、若クハ糖
 水、酒、石里蒙奈埵、菓實汁、酸性ノ植物液ヲ和スル
 ノ飲劑、蒸餅水等ヲ飲マシム、凡ソ泡釀セル飲液
 類、骨菲、香料、肉羹汁ハ、嚴ニ之ヲ禁スヘシ、
 交感諸症アル者ハ、誘導法ヲ以テ、之ヲ治スヘシ、
 宜ク症ニ隨テ、品ヲ撰フヘシ、阿芙蓉ノ用法、宜ニ
 適スレハ、消焮ノ効少ナカラス

以上記スル所、抵抗大過、殊ニ貴要部焮衝ノ治法、

足レリト云フヘシ、但シ抵抗虚性ニ陥ル者ニハ、
 何等ノ處置ヲ為スヘキヤ、

抵抗虚性ニ陥ル者ハ、減損法、消焮法トハ、全ク相
 反スルノ治法ヲ要スル者ニテ、滋養性ノ香竅食
 料、強壯ノ飲料、酒、揮發強壯品、吉那、苦味品等ヲ處
 スヘシ、此ノ如キ者實ニ之アリト雖、少年ノ醫輩、
 妄ニ衰弱ノ症、少許ノ謬妄、舌乾燥、脈小ヲ見テ、直
 チニ認テ虚性ニ陥ル者トスルヲ勿レ、諸病皆機
 能増減アリテ、抵抗進退スル者ナレハ、或ハ此ノ
 如キ假性衰弱ヲ發スル者アリ、故ニ常ニ衝動劑

強壯劑ヲ用ヘテ、之ヲ治セント欲シ、真症ヲ悟ラ
 スメ、假症ニ迷フ者ハ、十中ノ九ハ必ス病ヲ險路
 ニ向ハシムルノミ、抵抗ノ區別、及ヒ分利等ノ件
 件ハ、熱病條下ニ詳説スヘシ、
 其三、患部ノ性質、

各々ノ部位、皆自家ノ對徵、反徵アリ、故ニ消焮法
 亦其部位ニ應シテ差異アリ、其詳説ハ、各部局所
 病條ニ記スヘシ、故ニ今唯其通則ヲ説クナリ、
 局部焮衝、或ハ膿化シ、或ハ分解スル者ナレハ、
 初起ハ、勉テ分解ヲ促スヘシ、但シ既ニ時日ヲ

經過シ、方ニ膿化セントスル者ニハ、徒ラニ此
 法ヲ持久スルヲ勿レ、皮下ノ組織ハ、寒暖及ヒ
 他ノ諸法ヲ施用スヘク、腱ノ牽張シ、或ハ膿液
 鬱積スル者ニハ、刀針ヲ施スヘク、分解ヲ促カ
 スニハ、壓迫スヘシ、沔乙膜焮衝、蛛絲膜、胸膜、腹
 膜、等ハ、慢性水腫、或ハ滲出ヲ發シ易キカ故ニ
 殊ニ解凝劑、水銀、又分泌ヲ促カスノ品ヲ用フ
 ヘシ、表部ノ焮衝、沔乙膜、粘液膜ハ、揮發ニノ轉
 移シ易シ、故ニ解凝劑ヲ要ス、粘液膜焮衝、或ハ
 急性ニメ滲出アルアリ、膿眼、窒息性肺焮衝、格

魯烏弗或ハ慢性ニメ分泌變異スルアリ、虚性
 鬱血、腫瘍トナルアリ、故ニ治法數様ノ別アリ、
 急性症ハ、勉テ初起ニ有力ノ消焮法ヲ施スヘ
 シ、慢性症ハ、衝動法ヲ要ス、茲ニ著意スヘキ要
 件アリ、抑モ粘液膜ハ、他部ニ優リテ、局部藥ヲ
 堪易キ者ナリ、揮發刺戟劑腐蝕藥、刺戟性注入
 法、吹入法ヲ以テ、細管ヲ衝動シテ、大ニ効アリ、
 又粘液膜誘導劑偉効アリ、關節及ヒ纖維狀組
 織ハ、總テ沕乙膜ニ同シ、其焮衝ニハ、消焮法、及
 ヒ誘導法偉効アリ、吐酒石、及ヒ格爾失屈謨、妙

効アリ、肺焮衝ニハ、全身瀉血ヲ最佳ノ消焮法
 トス、之ニ次テ吐酒石、甘汞、水銀、擦劑ナリ、腸焮
 衝ニハ、凡ソ腸ノ粘液膜ヲ刺戟スル所以ノ諸
 品ハ、皆之ヲ嚴ニ禁スヘシ、
 局部焮衝ノ消焮最要法ハ、安靜ニ保護スルナリ、
 且ツ各部固有ノ刺戟物ヲ避クハシ、光ノ眼ニ於
 ケル、音ノ耳ニ於ケル、精神感動ノ腦ニ於ケル等
 是ナリ、
 其以局部焮衝時期、

内部焮衝ニ於テハ、之ヲ知ルヲ極テ難ク、或ハ全

ク能ハス、故ニ之ヲ處置スルニハ、唯病經過ノ長短ト、發見ノ諸症ニ據テ、推察シテ、治法ヲ建ルノ

夫レ局部ノ確然ナル時期ハ、知ルコト能ハサルカ故ニ、先ツ他ノ治法ヲ掲ケ、最後ニ此法ニ論シ及フナリ、時期ヲ知ルハ、實ニ要件ナレトモ、其能ハサルカ故ニ、今余唯醫者病床ニ臨ミ、妄想臆斷ヲ脱シテ、著意スヘキノ要旨ヲ記ス、則チ局部病、今方ニ何等ノ時期ナルヤヲ知リ能ハサル時ニ於テハ、醫者最モ精察ニ注意シ、原因

抵抗、經過ヲ併セ考テ、以テ治ヲ處スヘシ、患部ノ位置、眼、皮膚、口内ニ由リ、或ハ器械ヲ以テ檢査シ、百爾屈矢、豪斯鳩爾答質疾病ノ本性ヲ探リ得ヘキ者ハ、固ヨリ論ナシ、

醫者、患部ノ實性多血タルヲ知リ、或ハ之ヲ察ヒハ、則チ全身、或ハ局部瀉血ヲ施コシ、患部或ハ其近部ニ冷漏法ヲ施コシ、誘導法ヲ處シ、刺戟性手浴、脚浴、芥子泥、等積血ヲ消散セシムヘシ、但レ抵抗大過、急性炊衝ニハ、發泡膏、發疹膏、等ノ強力刺戟劑ヲ外用スルコト勿レ、是レ却テ病性ヲ險惡ニ

進ムルナリ、抵抗已ニ減退シ、焮衝慢性、虚性ニ傾
ク者ニハ効アリ、勉テ患部ノ位置ヲ高上ニシ、血
液自家ノ重力ニテ、更ニ患部ニ輻進スルヲ防ク
ヘシ、例之、血液頭部ニ輻進スル者ハ、頭ヲ高クシ、
肺ニ輻進スル者ハ、上身ヲ起スカ如シ、兼テ清涼
ニノ刺戟ナキ食餌ヲ與フヘシ、
滲出期ニハ、減損法ト誘導法トヲ魚子施コレ、且
ツ分泌ヲ促カスヲ佳トス、甘汞、緩下劑、實芙蓉里
斯、硝石、温浴、蒸溺法等、但シ全身脈管ヲ刺戟シテ
分泌ヲ增多スルノ諸品ハ、抵抗ヲ過強ニスルヲ

以テ、之ヲ避クヘシ、能ク滲出液ヲ吸收シ去ルナ
リ、然レモ此ノ如クナルトヲ得サル者ハ、宜シク
時日ヲ俟ツヘシ、機性體遂ニ滲出液ニ慣ル、ト
アリ、補給機盛ニメ、滲出液漸ク異物ヲ製造スル
ニ至ル者ハ、補給機ヲ減殺スルノ諸法ヲ施コス
ヘシ、減食法、轉換法、古人之ヲ消散法ト稱ス、或ハ
効アリ、
水液潴留スル者ハ、自然ノ分泌ヲ增多シテ之
ヲ消散セシメ、或ハ器械ニテ針刺法、穿開法ヲ
行ヘ、之ヲ漏泄スヘシ、胸水ノ如キ生命危険ノ

ル
焮衝
二
カ
書

者ニハ、速カニ穿開法ヲ行フヘシ、水液漏泄ス
 ルニ由テ、焮衝分解ヲ得ル者常ニ多シ、一回ノ
 漏泄ニテ、復タ滯留セサル者アリ、或ハ漏泄ス
 ルト二三回ニ及フヘキ者アリ、脈管刺衝尚未
 タ减退セサル者ハ、兼テ食餌ヲ減少シ、清涼劑、
 硝石、實芙蓉里斯、甘汞、中和塩ヲ與フヘシ、

上ノ諸法ヲ善ク用フレハ、膿化ニ及フトナシ、固
 ヲリ膿化ヲ防クヘキ妙効品ト稱スヘキ者、一モ
 アルトナシ、膿化ハ焮衝滲出ノ健康組織ニ同化
 セントスルノ進歩ナレハ、適度ノ者ニ於テハ、之

ヲ自然ニ委シ、或ハ更ニ之ヲ促カスヘシ、則テ之
 ヲ障害スルノ内外諸因、器械性、有機性障害、等ヲ
 除キ、濕温糊劑、蒸漏法、蒸氣法、ヲ施コシテ、以テ滲
 出液ヲ溶解スレハ、隨テ膿化ヲ促スニ足ル、膿液
 垂下、組織潰爛スルハ、危險ノ症ナレハ、宜シク時
 ニ應シテ、腫瘍ヲ刺開シ、膿液ヲ恣ニ流移スル
 ト勿ラシムヘシ、内部ノ膿化已ニ熟スルヲ知ル
 トハ極テ難シ、故ニ膿ヲ外部ニ導キ漏泄セシム
 ルト常ニ易カラス、
 膿化變シテ腫瘍トナル者ハ、其原因ニ應シテ治

ヲ處スヘシ、
 已ニ死肉トナル者ハ、之ヲ生肉ニ復スルヲ能ハ
 ス、已ニ死敗スル者ハ、復タ生活スルヲナシ、但シ
 近接スル部ノ生肉ヲ保護シ、敗膿ノ浸淫スルヲ
 防クヘシ、先ツ壞疽トナルノ原因ヲ探リ、抵抗過
 強ニ由ルカ、多血鬱積ニ由ルカ、腱狀組織ノ壓迫
 ニ由ルカヲ知リ、之ヲ排除スレハ、壞疽ノ蔓延ス
 ルヲ防クヘシ、敗膿ノ健全部ヲ害スルヲ防クニ
 ハ、外部ノ壞疽ニハ、吸收スルノ性アリテ、膿液ノ
 含密性ヲ一變スルノ粉末、麻屈涅矢亞、木炭等ヲ

外敷シ、又刺開シテ、健全部ヲ害スルヲ勿レ、膿液
 ヲ漏泄セシム、壞疽ニハ、局部防腐劑、酒滓、吉那、格
 魯兒等ヲ施コス、死肉分界ノ部ニ、焮衝ヲ生シ、醗
 膿スルハ、良能ノ機能ニ出ツ、
 敗膿ヲ吸收スルニ由テ發スル溶崩熱ハ、滋養ノ
 食物、吉那、攝爾扁太里亞、山物酸、那布答等ニテ、諸
 カヲ補益スヘシ、
 曾テ焮衝ニ罹ルノ部ハ、愈後直チニ舊時ノ固性
 ニ復スル者ニ非ス、少時間ハ、感覺敏捷ニテ衰弱
 ス、然レモ此衰弱ヲ治スルカ為ニ、強壯品、衝動品

フルトニシテ、ハ、焮衝
 四
 切白樓梓

ヲ與ヘントスルハ、大ニ非ナリ、凡ソ彼此ノ疾病、
殊ニ焮衝後、生力減損スル者ハ、營養故ニ復シ、諸
機平均ヲ得ルニハ、必ス時日ヲ要スル者ナリ、然
ルニ敏捷ナル部ニ、妄ニ新刺戟ヲ與フレハ、却テ
非常ノ運動ヲ發シ、又其部未タ此ノ如キノ刺戟
ニ堪サルカ故ニ、必ス一新病ヲ起スノミ、是ヲ以
テ焮衝愈後治法ノ最佳ナル者ハ、時日ヲ經過シ、
營養ノ機能ヲ妨ケサルニ在リ、則テ緩性滋養ノ
食餌、清潔氣、消化補給ノ機ヲ盛ニシ、凡ソ非常ノ
刺戟ヲ避ク等ナリ

侃斯達寫卷三 終



